



114  
A3415

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



謹<sub>ニ</sub>テ大藏卿大隈重信閣下ノ執事ニ白ス近來現  
積<sub>ニ</sub>出ノ問題ニ於テハ朝野ノ俊才各其辨説アツ  
テ愚筆ノ迂言ヲ吐露スルハ實ニ愧ヘキノ至ナレモ愚亦  
財務ニ志シ常ニ中外貿易ノ景況ニ着目シ遂ニ之  
ヲ黙止スルヲ得ス思フ拙文ニ作成シ伏シテ以テ  
閣下ノ執事ニ呈セントス論迂濶ニ涉リ事實實際ニ適  
セザルモノアレモ執事之ヲ寛恕シテ若シ電覽ヲ  
賜ハ何ノ幸カ之レニ過キス

明治八年十月

七等中仕川路寛壹頓首

大隈

現貨溢論

川路寛堂

近来我現貨ノ海外ニ溢出スルヤ朝野ノ論者各  
其心カヲ盡シテ之ヲ辯議シ或ハ之ヲ防クヘカ  
ラサ  
ルノ説ヲ述ヘ或ハ之ヲ禦クノ策ヲ陳シ議論紛々  
終ニ已ムトナシ是レ實ニ全國ノ理財ニ関スル一大事  
ニシテ苟モ經濟ニ志スモノ誰カ心思ヲ焦サシラニヤ  
然レ凡之ヲ論スル宜シク其源ニ溯リ何故斯ク現貨ノ  
溢出スルヤ其由来ヲ究ムヘクシテ而メ其之ヲ防キ得  
ヘキヤ將夕之ヲ防カサルモ最テ害ナキヤ或ハ到底之  
ヲ防キ止ルヲ不能ヤノ道理ヲ講究スヘキモノナルヘシ  
夫レ此現貨溢出ノ源同ヲ探ルニ當リ或ハ云我國輸出  
入ノ平均ヲ不得ヨリ其差ハ正金ヲ以テ輸出スルカ故  
ナリ依テ之ヲ防ク方畧ハ只彌出ノ平均ヲ得セシメ

シテニ在テ而メ自今後凡百ノ物品ヲ外國ニ仰カス皆  
自國ノ製品ヲ以テ需求ヲ辨セシト或ハ云外債消却  
并ニ利金出與ノタメ若干ノ正金ヲ輸セスルカ故ナリ  
宜シク早ク外債ヲ消シ盡スヘシト或ハ我造幣寮ニ於テ  
金四ヲ鑄造セシ以來海外ニ輸セシ金四ノ計ヲ算シ我  
國ノ金ハ悉ク海外ニ出ント只痛哭悲歎シテ己マサルノ革  
アルヘシ今熟ラ之ヲ考フルニ現債ノ溢出スルハ輸出入ノ  
差并ニ外債ノ消却等ヲ正金ニテ拂フカタメト云ハ至  
當ノ理ナレモ金債ノ輸セスルハ別ニ昭然タルノ原因ア  
ツテ而シテ輸セ入ノ平均ヲ得サルニ関セス又若干ノ外  
債ヲ消却スルニ関セス何ヲカ現債ト云中外論債幣  
是ナリ何ヲカ金債ト云特ニ明治四年以來鑄造セシ  
金四是ナリ此故ニ輸セ入ノ不平均即チ現債ノ溢セ

ト金債ノ輸セト各其源因ヲ異ニシテ而メ之ヲ論ス  
ル更ニ二途ニ分タスニハアルヘカラス蓋シ現債ノ溢セ  
スルニ從テ金債ノ輸セスルニ非ス又金債ノ輸セスル  
後テ現債ノ溢セスルニ非ス總令ヘ能ク金債ノ溢セ  
ラ防キ得ルモ現債ノ溢セラ防キ得ス又現債ノ溢セ  
ラ防キ得ルモ金債ノ溢セラ防キ得サルノ理ナラン意  
造物者ハ一人ニ百能ヲ與ヘス一方ニ萬物ヲ産セス凡  
ソ人間社會ノ此世ニ在ルヤ互ニ有無ヲ交換スルノ途  
絶ヘハ安樂生命ヲ保ツテアタハス此故ニ物一方ヨリ  
セレハ一方ヨリ入是レ天然ノ道理ニシテ而メ四海弟兄  
互ニ社會ノ交通ヲ盛ニセント欲スルノ所以ナリ由之之  
ヲ觀レハ方今現債ノ溢出スルモ元ト有無交換ノタメ  
物品セ入ノ差ヨリ生スル所ニテ敢テ之ヲ患フルモ

益ナク又恐ラクハ今之ヲ陪キ得サルニ似タリ何トナ  
レハ今我國駸々乎トシテ文明日新ノ域ニ進ミ富  
國強兵開産興業基ヲ開カントシテ政府ニ於テハ鉄  
道建築鑛山鑿坑器具及ヒ鉄艦等ノ需要ヲ免カレ  
ス人民ニ於テハ百工ノ器械毛布ノ種類等需求ヲ増  
進セシモノ枚挙ニ遑ラス然ルニ皆如是ノ物品ハ之ヲ  
歐米ニ仰カスニハ如何共ナシ難シテ其出ル所ノ貨幣  
ハ変シテ斯ル必要ノ物品トナレハ敢テ現貨溢々ノ  
文字ヲ以テ附シ難シ(無用ノ消亡品ハ此限ニ非ス)斯  
ル物品ヲ内國ニテ製セントス氏百工學藝ノ進歩シ  
テ數層高度ニ至ラサルノ以前ハ能ク誰カ之ヲ作シ  
得ンヤ又縱令能ク之ヲ作り得ル氏若入費多クシ  
テ其物品ノ價高貴ニ至レハ寧口之ヲ海外ヨリ輸入

スルニ如カス若シ又輸入スルヨリ低價ヲ以テ斯ル需  
要ノ物品ヲ内地ニテ悉ク製造シ得ハ所謂上ノ上ナル  
モノナレ氏今日ノ形勢ヲ以テ云ハハ幾年ヲ経テ其域ニ  
至ルヘキヤ愚未夕之ヲ豫言スル能ハス之ニ及ニテ近年  
我國内地ノ物産絲茶銅石炭(絲ハ年々品位ヲ粗ニ  
スルニモセヨ)ノ如キ内地貴重ノ物品モ漸ク繁殖シテ  
縱令需求ノ少キカタメ輸出ノ高ハ一兩年間稍々減  
スルトハ蚤モ其産出ノ數ヲ増セシテ夥シク其中茶  
産ノ如キハ特ニ著シキモノニシテ而シテ輸出ノ數モ  
特ニ盛大トナレリ且我政府賢明卓識鑛山ヲ開キ以  
テ國ノ貨財ヲ増サントシ鐵道ヲ築キ公路ヲ通シ以  
テ内地運輸ノ便ヲ開キ加之頃牧畜ノ業ニ着目シ荒原  
未耕ノ地ニ於テ後來無量ノ畜產ヲ開カントスルノ

鳩矢ヲナシ高税ヲ興シ農稅ノ薄シ租稅ハ富メルモ  
ノニ課スルノ公理ニ基キ以テ全國農工ノ業ヲ興張セ  
シメントス蓋シ此形狀ヲ漸進シテハ久シカラスニテ盛  
大ナル物產ヲ興シ全國ノ貨財ヲ増シ隨テ巨計ノ輸也  
ヲモ増進スルニ至ルヘキハ論ヲ不待ナリ然レモ試ニ一  
ノ疑問ヲ起シテ云ハシ後來盛大ノ物產ヲ興シ之ヲ輸  
出スルニ當テ其時初メテ我國輸也入ノ平均ヲ得今日  
世人ノ擧ヲ解ク乎答テ曰不然如何トナレハ國ハ益々開  
明ニ進ミ物產ハ増シ貿易ハ盛ニシ輸也ハ大ナルニ從テ其國  
ノ需要ハ倍々多キカエハ輸入モ亦盛ニナルヘシ夫レ野蠻  
赤裸ノ民ニ非ル以上ハ國ノ開化ニ向フニ從ヒ一歩進メハ一  
歩ノ需要ヲ倍スハ必然ノ勢ナリ況ニヤ我國ノ如キ近年  
世上ノ文明社會ト云ヘルモノヲ知り走テ之レト並立セシ

トスルニ於テオヤ又試ニ問フ然ラハ乃チ何レノ時カ此輸  
出也入ノ平均ヲ得ルヤ曰ク元輸也入ノ多寡ハ内外需  
要ノ多寡ト支給ノ多少ニ依テ異同ヲ生スルモノニシテ敢  
テ物產ノ多寡ニ依ラス故ニ内國ノ物產外國ニテ需求  
多キ年ハ輸也多ク内國ニテ外國物產ノ需要多キ年ハ  
輸入多キノ理ナリ假令ハ我國今歲億萬噸ノ石炭ヲ產  
出シ歲億萬斤ノ茶ヲ製シ之ヲ海外ニ輸也セント欲ストモ  
モ若シ海外ノ需要ナクニハ之ヲ賣スル不能ト云カ如シ又  
假令ハ内地ノ製作物盛ニシテ増殖シテ百工ノ器毛布ノ美  
等(政府需求ノ品ハ暫ク置テ之ヲ論セス)殆ント歐米ノ品位  
ニ彷彿タルモノヲ作成シ之ヲ自國ノ支給ニ充ツルトモ若  
シ海外ニテ之レニ優レル精巧美廉ノ同品物價低下ナルモノ  
アルハ其入來ル有テ而シ内地ノ需求スルニ必セリ

何トナレハ三尺ノ童子モ用品 美良ヲ好ムハ自然ノ理ニ  
シテ價僅少ノ差異ニテ良品ヲ得ルヲアテハ誰モ之ヲ  
購求セント欲スレハナリ然リト云モ凡天下ノ事書上ノ  
空理ノミヲ以テ處ニ難ク宜シク實地ノ景況ヲ考ヘ張  
弛緩急セスニハアルヘカラス茲ニ於テ自國ノ製造産物ヲ  
興張シ内地ノ需要品ハ之ヲ外ニ仰カスシテ足ルヘキ所謂上  
ノ上ナル地位ニ至ラシメ外来物産ノ輸入ヲ防カントノ方畧  
ナクニハアル可ラス是保護稅說ノ起ル所以ニシテ而メ自由  
貿易ト相争フハ學者ノ所知敢テ縷述セ及ハス何レカ是  
何レカ非未タ世上ノ定論ナシ然レモ愚以為ラク自由保護  
ノ兩ナカラ元ト理財學派ノ名稱ニシテ博士各學門ノ主  
意ヲ異ニシ筆鋒舌頭相争フノ論柄トナスニ過キサルノ  
ミ抑モ理財ノ實際ニ於テハ豈腐儒書生カ學門ノ主意ヲ

相闕論スルカ如クナルヘケニ或ハ時トシテ自由貿易ノ說ニ  
基キ或ハ時トシテ保護貿易ノ說ヲ採リ唯當時ノ國勢ト  
事態ニ適スルヤ否ヲ考査シ理財ノ當ヲ得セシムニ在リ  
況ニヤ我國ノ如キハ未タ東洋社會ヲ免レス風俗習慣歐  
米ニ比スレハ甚特異ナルカ故ニ又特異ノ理財法ヲ以テ處セス  
ニハアルヘカラス夕、當時適宜ノ方向ハ一定ニシテ之ヲ誤ラ  
ザルニアルノミ然ラハ方今我國適宜ノ方向ハ果シテ何レニア  
ルヘキヤ其方向ヲ問ニ於テハ當時保護稅ヲ可トスルモノ  
什カ七八ニ居ルヘシ然レモ今其保護稅ノ方向ヲ定メ之ニ  
進マントスモ現今ノ條約ニ於テハ如何ントモ之ヲ成シ得  
ヘカラス宜シク海關ノ稅權我ニ歸スルノ日ヲ待テ徐々ト  
着手シテ而メ需要支給ノ平均ヲ得理財ノ當ヲ得セシ  
メントスヘキノミ其他今何ノ方法ヲ以テ輸入ノ

平均ヲ得セシメ現貨ノ也ニテ汚カントスル乎然ラハ  
茲ニ又一ノ問題ヲ引起シ彼ノ金貨ノ派々ハ何故輸  
入ノ不平均ニ開セシテ現貨ノ也與ト其原因ヲ異ニス  
ル乎又之ヲ防クヲ能ハサルカト云ハ愚今之ヲ論辨セシ  
抑モ金貨ノ輸々スル原因ハ他ナシ金相場ノ差異アルニ  
依ルヘシ故ニ愚前キニ輸々入ノ不平均ト其原因ヲ異ニス  
ト云リ金相場ノ差異トハ何事ソ東西洋相場ノ差異ア  
ルヲ云ナリ 以上金貨輸々ノ原因ハ金相場ノ差ニ因ルトノ論  
ハ尙五月中東京日新報社説ト相伯仲セリ 之ヲ適切ニ  
云ヘハ一言ニテテ盡スヘシ曰ク日本ハ昔今金ノ價歐洲ニ比  
スレハ低下ト云ナリ假令ヘハ倫敦ニテ日本金因是收ノ價  
四拾九ペンスナルニ之ヲ日本ニテハ四拾七ペンスノ比例ヲ以テ  
買得ルト云カ如シ此故ニ洋商ノ我地ニ在ルモノ(或ハ本  
國ノ注文ヲ受ケ)其低價ノ金ヲ買ヒ多クハ之ヲ倫敦ニ

ニ輸入シ(倫敦ニハ普ク世上ノ貨幣及金屬ノ市場アレハ  
ナリ然レハ法蘭西日耳曼等ニ入モノモ亦少ナカラス  
ト云)其利ヲ射ルモノナリ然リ而シテ日本因金ノ海外ニ  
於ルヤ貨幣ノ用ヲ保タス唯日本産物ノ金塊ト認め  
他ノ内國産(絲茶ニモセヨ)ニ於ルカ如ク一ノ輸々品タルハ世人  
ノ通知スル所ナルヘシ此故ニ内地ノ金貨貴價ナレハ輸々  
少ク低價ナレハ輸々多シ然シテ縱令ヘ我港輸入ノ輸  
々ヲ超過スルヲ大ナリト虽モ若シ内地ニ於テ金ノ價  
高貴ナルハ債幣輸々表ニ著ハレタル金貨輸々ノ  
計少シ若シ又金ノ價低下ナルハ之ニ及ス是金貨ノ  
輸出ハ一兀貿易ノ不平均ニ開セサルト云所以ナリ愚試  
ニ海関ノ報告書等ヲ参考シ一ノ統計表ヲ作り當明治  
八年第一月ヨリ六月迄ノ輸々入及現貨ノ出與金因



ノ輸也等 各月ノ比較ヲ著シ其統計上ヨリ教示ス  
ル所ノモノハ真ノ概畧ナリト云モ亦(何トナレハ本月貿  
易不平均ノタメ出興スヘキ現債ハ直千ニ之ヲ輸也ス  
ル片モアリ或ハ銀行ノ都合等ニ依リ二三ヶ月乃至五  
六ヶ月ヲ経テ后輸也スル一モアレハ各月ノ比較ハ之ヲ  
詳細ニ合フ一能ハサル故ナリ)以テ前キ辨白セシ理源ノ  
空理ニ非サル一端ヲ證スルニ足ルヘシ請フ茲ニ附スル  
ノ一表ヲ一覽セヨ當一月一日ヨリ六月三十日迄ノ間ニ貿  
易ノ平均ヲ得サリシモノハ第五月ヲ以テ最トス其輸  
入(官用品ヲモ併セテ)超過ノ計一百九拾万。四千三百  
貳拾九圓有奇此時現債ノ流也セシ計一百八拾貳万  
八千八百拾貳圓余ニシテ金債ノ輸也セシ計ハ一百。四  
万九千四百三拾貳圓余ナリ然ルニ金債ノ輸也多

キモノハ第三月ヲ以テ最トス其計貳百万。〇。五千  
四百四拾四圓餘ニシテ輸入超過ノ計ハ僅カニ一百  
七拾貳万九千六百拾八圓餘現債ノ流也計ハ貳百  
四拾三万七千五百三拾三圓余ナリ退テ考フルニ金  
債ノ也ルハ全ク金相場ニ関スル所ニシテ而シテ其相  
場ノ差異アル根元ハ何ソ英金ノ為換ト墨希  
西哥銀ノ相場ヨリシテ起ル一必セリ然レモ我金  
圓ニ對シテハ墨銀相場ノ為メニ感觸スル一付カ  
八九ニシテ英金為換相場ノ為ニハ直接ニ感セサル  
ナリ何ントナレハ墨銀ハ東洋ニ於テ貿易ノ媒ヲナ  
シ通債ノ大權ヲ在ムルモノニシテ(繼令僅ニノ貿易  
銀ハアルニモセヨ)微々タル我金圓ノ相場ハ墨銀ニ  
從テ高低ヲナスノ理ナルハ是ヲ詳説セシニ假令

ハ當一月ノ相場ニ從ヒ横濱ノ貨幣市ニ於テ墨銀ノ相場ハ日本ノ紙幣ニ對シ二百弗ニ付日本紙幣一百〇三四ハ拾七弍五厘ナリ然ルニ金田ヲ買ハントスルニハ紙幣相場ニ加フルニ百ニ付二ノ分合ヲ附セサルヲ得ス然ラハ乃チ墨銀一百弗ニテ日本金田一百〇壹圓ハ拾七弍五厘ヲ買フヲ得ルナリ然リ而メ其墨銀ハ何ヲ以テ買フト云ハハ英金ノ為換券ヲ以テス其相場直拂ノ手形ニ於テ墨銀壹枚ニ付四拾九ペン半ニ當ル左レハ英金貳拾ホンド拾貳シルリシク貳ペンスヲ以テ日本金田一百〇壹圓ハ拾七弍五厘ヲ得ルノ理ナリ而メ其頃倫敦ノ貨幣市ニ於ル日本金田ノ相場ハ百枚ニ付英金貳拾ポイント九シルリシク貳分ノ一ニシテ墨希西哥銀

ハ百枚ニ付貳拾ポイント九シルリシク程ニ當ル此故ニ當時日本金田ヲ倫敦ニ輸送セシ輩ハ英金ト日本金トノ交換ヲ以テハ其益ナシト雖モ彼ノ東洋貿易ノ權ヲ占ムル墨銀ヲ以テ媒トセシカタメ現然墨銀ト我金トノ差タル百弗ニ付壹圓ハ拾七弍五厘ハ利益トナルヲニシテ而メ運賃其外ヲ差引疑ヒナク百ニ付一ノ利益トナリタルヘシ然リ而メ若シ當時我國ニ於テ墨銀ノ價甚タ低下ニシテ假令ハハ墨銀百弗ニ付金田九拾七八圓ノ相場ニ至リシハ之ヲ買テ輸セセント欲スルハ益ハ轉シテ損トナルカ故之レヲ企テシモノ誰モアル可カラズ又茲ニ附シタル統計表ヲ看ヨ金貨ノ輸セ最モ多キ第三月ニ於テハ六ヶ月中最モ墨銀ノ價貴キ月ナリ故ニ

曰我國金貨ノ價ハ金ク墨銀ニ依テ高低アツテ  
而シ墨銀ノ價貴ケレハ我金貨海外ニ出テ墨銀  
低價アレハヤルヲ少キノ理之ヲ詳説セシニ銀價貴  
ケレハ金去リ金價貴ケレハ銀去ル論ヲ不待ルナリ  
然ラハ乃チ我國ニ於テ金銀ノ相場ヲ一變ニ金  
銀ノ位置ヲ上下スルニ如クハナシ然リト雖モ凡ソ  
物品ノ相場タルヤ恰モ大洋ノ濤大空ノ風ノ如  
ク瀾々トシテ定所ナク其高低ハ能ク人カノ豫  
知スル所ニ非ス又人カノ容易ニ之ヲ高低スル  
ヲ能ハサルモノナリ況ニヤ金銀相場ノ如キハ  
地球上貿易ノ權衡ニ關スルモノニシテ而シテ誰カ  
其權ヲ掌握スルヤ蓋シ倫敦ノ貨幣市ト雖  
モ人カヲ以テ之ヲ上下スルヲ能ハス然ラハ乃チ

今我國ニ於ル金銀ノ相場ヲ變ニ銀ヲ驅逐シテ金ヲ  
海門ニ迎フルノ方策ナキ乎抑モ亦坐視ニテ而シ  
我國ヲ銀世界ノ一部分タラシメ金世界ノ美ヲ他  
人ニ讓ラントスル乎 愚竊カニ以テラク素ヨリ相  
場ノ高低ハ人カノ能ク之ヲ成ス所ニアラサルハ綏  
述ニオヨハス然レモ唯人カハ以テ一方ノ相場ヲ動搖  
スルニ足ルヘシ何ントナレハ金銀モ亦他ノ物産ニ  
於ルカ如ク支給ト需要ニ依テ自ラ其價程ノ高  
低アルモノナレハ縱令金價ノ貴キ都會ト雖モ  
巨萬ノ金貨ヲ一時ニ賣出シ之ニ代ルニ銀貨ヲ  
買フテアレハ銀ノ需要多キカタメ金ノ價ヲ壓シ  
金銀其所ヲ變ニヘク又之ニ及シ銀ノ貴キ都  
會ニ於テ巨萬ノ銀ヲ一時ニ賣リ之ニ代ルニ金

ヲ需メハ即又金銀其位ヲ異ニシ一時其都會  
ノ金銀相場場ヲ動搖シ随テ一時一方ノ相場ニ  
モ向テ響キ暫ク價程ノ高低アルヲ免レ(世界  
中ノ權衡ハ如何ニセヨ)ナルノ理ナレハナリ此故ニ  
世ノ豪商中方畧アルモノ貨幣市ニ也没ニ相  
場ヲ動搖シ其際偽造ヲ得ルモノ少ナカラス  
之レ頗ル冒険者相場師ノ所為ニ似テ純良商  
估ノナス所ニアラサルカ如クナレ氏時トシテハ  
此意ヲ活用シテ以テ國ノ理財法ニ加味セサル  
ヲ得ス何トナレハ方今宇内各其國ヲ保護シ  
(數千年ノ先ハ不知レ氏)財ヲ理シ產ヲ興シ唯  
富強是レ圖ル此時ニ當テヤ理財ハ所謂商  
業ニシテ而メ商業ハ活物其活物ニ處スルヤ藥

石モ變シテ毒トナルアリ毒モ轉シテ藥石トナ  
ルヲアレハナリ愚者テ米洲ニ官遊シ余ヲ奉  
シテ勅育ニ在ル教向日ニ同所ノ合衆國也  
納索ニ也入シ也納確頭ノ説示ヲ受ケ同索  
ニテ金貨ノ商業ニ從事スルヲ同擊シ噫理財  
ノ實際ニ處スルハ如此故ト於今銘心ス米國ス  
ラ然リ況ニヤ我國ニ於テオヤ由之觀之レハ我  
國ニ在ル墨希西哥銀ヲ動搖シ以テ我金田ニ  
感觸セシメ銀價ヲ低クシ金貨ヲ貴クセシメ(繼令  
東洋銀價ノ夕メ我僅々ノ金田價程ヲ壓セラ  
ル、ノ勢アルニモセヨ)銀ヲ驅リ金ヲ迎フル方畧  
ノ一助ヲナス敢テ至難至重ノ一ニアラサルヘ  
ク又之ヲ施サスニハアルヘカラス夫レ我國

各開港ニ流通スル墨銀ハ僅カニ五拾萬ヨリ六拾萬  
弗ヲ過クヘカラス然ラハ乃チ拾万又ハ貳拾万弗ヲ  
以テ各開港場ノ貨幣市ヲ動搖スルニ足ルヘシ冀  
クハ今大蔵省ニ於テ壹貳拾万ノ墨銀ヲ此運轉  
ノ方策ニ供シ性敏捷ニシテ中外ノ商務ニ通知ス  
ルモノニ密命シ或ハ買ヒ或ハ賣ラシメ坐没轉々セ  
シメ(商務ノ運轉ハ紙上ニ盡ス府ニアラス)加之ニ海  
關ニ於ル金債ノ低價今貿易銀百枚ニ對  
金債百枚用ノ割ヲ廢シ貿易銀  
壹枚ト金同壹枚ト同比例(或ハ相場ニ依テ金同ノ  
貿易銀ヨリ高價ニ至ルモ知レス)ヲ以テ關稅ニ收領  
シナハ縱令ヘ日本ヲシテ黃金ノ世界トナスコト  
能ハストモ蓋シ方今ノ金銀價程ヲ變ニ稍々金  
債ノ派セヲ防クニ至ルヘキ乎抑モ此他何ノ方

畧カアル我聖明ノ政府中外商務ノ景況ヲ洞察  
ニ能ク理財ノ活物ニ處シ方向ヲ定メ徐々トシテ  
漸進セハ今日論者ノ愁眉ヲ解クモ豈難カルヘ  
ケニ哉

第一日 同 氣 月 正 結

全 圓 出	廣 心 金 天 善 國 金 寶 善 舖 也	新 羅 寶 泉 新 羅 寶 泉 新 羅 寶 泉	神 人 註 冊 信 寶 舖 神 信 大 羅 美 月 春	神 寶 泉 羅
4	4	4	+	5
25820	10608	43453	25354	414
1	1	1	-	5
22274	10231	43453	20453	414
1	1	1	+	5
20044	12442	52442	10442	414
1	1	1	+	5
14233	21233	12442	22442	414
1	1	1	-	5
10454	16438	22442	22442	414
1	1	1	+	5
24374	22442	42442	14104	414
211821	202442	24374	41314	414

大 痛 省

明治八年第一月同日第六月迄統計小表

月	輸出	輸入	輸超 入過	貨輸全 幣出計	金輸 圓出	外 國 金 貨 輸 出	洋 銀 貨 易	銀 貨 輸 出	比較 差引 著 輸 入 超 過 計	相 場 平 均	日 本 金 圓	相 場 平 均	日 本 金 圓	相 場 平 均	外 債 消 却	工 拂 入 洋 銀
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	厘	一 分 二 厘	厘	厘	厘	円	円
一月	1,232,187	1,826,829	594,642	1,117,916	578,850	106,638	1432,422	523,274	+	62-27	76/4	415	411	49	232,727	
二月	796,441	2,361,183	1,564,742	1,200,484	655,858	105,367	439,258	364,258	-	82-56	76/3/4	416	412	49	438,578	
三月	1,284,105	3,015,723	1,729,618	2,487,533	2,005,444	153,492	278,597	607,915	+	82-83	76/3/2	419	412	49	-----	
四月	961,782	2,324,281	1,462,593	1,818,512	1,425,753	212,973	178,795	355,919	+	82-67	76/3/5	417	411	49	412,556	
五月	954,294	2,858,623	1,904,329	1,828,812	1,049,432	191,538	587,839	775,517	-	82-64	76/3/2	417	411	49	161,010	
六月	1,725,288	2,400,793	675,525	1,086,505	343,794	256,568	486,203	411,040	+	82-26	76/3/5	415	410	49	-----	
通計	6,354,097	14,786,432	7,931,449	9,403,276	8,998,531	1,026,588	2,403,114	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	1,241,452	

